

生物学

講師名 岩田 朋巳

ねらい

必要な生物学の基礎を習得してもらうこと。

高校で履修している学生には高校生物の復習をしてもらうこと。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 細胞小器官のはたらき、原核生物と真核生物、顕微鏡の操作方法 2. 光学顕微鏡の使い方、マイクロメーターの使い方、代謝（同化と異化の違い） 3. 酵素（特徴、組織、性質）、光合成と呼吸 4. ミトコンドリアと葉緑体の起源、細胞の形と大きさ、単細胞生物と多細胞生物 5. 遺伝子の本体である DNA,DNA の構造、血液の成分とその働き 6. 赤血球のはたらき、血液凝固のしくみ、血管系 7. 心臓の収縮の調整、興奮の伝導と伝達、中枢神経、自律神経 8. 自律神経系のはたらき、ヒトのホルモン（内分泌腺、働き、血糖量の調整）	15	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 生物学	川合進二郎・矢尾和彦 ・高坂利美・合場千佳子	医歯薬出版株式会社

化学

講師名 大石 悦子

ねらい

必用な科学の基礎を習得してもらうことで、今後の専門科目で活かせるようになること。

1単位（15時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 原子、イオン、化学結合、周期表 2. 物質と化学反応式 3. 物質の状態変化、気体の性質、溶液の溶解度 4. 希薄溶液の性質、コロイド溶液 5. 酸、塩基、中和、酸化・還元イオン化傾向 6. 非金属元素の性質 7. 金属元素の性質 8. まとめ	15	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 化学	鶴房繁和・矢尾和彦 ・高坂利美・合場千佳子	医歯薬出版株式会社

臨床心理学

講師名 松岡 紘史

ねらい

臨床心理学とは、人間の行動や心的過程を科学的に探求し、それを応用する学問である。

本講義では、臨床心理学の基礎分野となる心理学の領域の中から代表的なテーマをとりあげ概説することによって、心理学の基本的発想を学ぶとともに心理学がどのようにわれわれの生活と結びついているかを理解する。また、臨床心理学における考え方の1つである認知行動療法について学び、認知行動療法を医療の場でどのように応用していくかを理解する。

2単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 感覚・知覚 2. 学 習 3. 記 憶 4. 動機づけ 5. 感情・情動 6. パーソナリティと知能 7. 社会・文化 8. こころの問題 9. 認知行動療法によるアプローチ：行動面・認知面からの理解 10. 認知行動療法によるアプローチ：機能分析 11. 認知行動療法によるアプローチ：行動のコントロール 12. 認知行動療法によるアプローチ：認知のコントロール 13. 認知行動療法によるアプローチ：情動のコントロール 14. 認知行動療法によるアプローチ：慢性疾患の行動変容 15. 認知行動療法によるアプローチ：歯科心身症の治療	15	講 義	筆記試験 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 心理学	二宮 克美 著	医歯薬出版株式会社

歯科医療倫理学

講師名 西東 聖子

ねらい

歯科衛生士にとって医療倫理の概念が、なぜ必要なのかを理解した上で医療の担い手として、自分自身をも守りながら患者中心・患者本位の歯科医療を進めていくための基本的な知識および取り組み方を学習する。

1 単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科衛生士は治療者 2. なぜ医療倫理を学ぶのか 3. 医療倫理に関する規範 4. バイオエシックス（生命倫理学） 5. インフォームド・コンセント 6. 研究と医療倫理 7. 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 8. 臨床の実際を考察する	15	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習	レポート

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学	松井恭平・山根瞳	医歯薬出版株式会社

歯科英語

講師名 川村 ジェアネッテ

ねらい

外国人患者とコミュニケーションを円滑におこなうことができるように歯科医療に必要な英会話を習得する。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 受付対応（電話）について 2. 受付対応（初診）、問診について 3. レントゲン・抜髄について 4. 抜歯について 5. 受付（会計・薬の説明）、虫歯の説明について 6. レジン充填について 7. 感染根管治療について 8. 歯周病について 9. 歯周検査について 10. ブラッシング指導について 11. スケーリングについて 12. 歯冠修復について 13. ブリッジ、義歯について 14. 矯正治療、インプラントについて 15. 口内炎、口臭、顎関節症について	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科医院での実用英会話	土田 和哉ほか	医歯薬出版株式会社

レクリエーション

講師名 加藤 つかさ

ねらい

身体的健康を目指す（健康的な体型の維持、体力・筋力の維持、疲れにくい体、抵抗力の向上など）精神的健康を目指す（気分転換・ストレス解消、不定愁訴の低減）

1単位（30時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 春のアロマヨガ 2. 春のデトックスヨガ 3. フローヨガ 4. パワーヨガ 5. ハタヨガとペアヨガ 6. 夏の養生ヨガ 7. 自立神経を整える陰陽ヨガ 8. 経路ストレッチヨガ 9. 秋のアロマヨガ 10. デトックスヨガ 11. コミュニケーションワーク① 12. コミュニケーションワーク② 13. コミュニケーションワーク③ 14. コミュニケーションワーク④ 15. コミュニケーションワーク⑤	30	演習	実技試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
なし		

解剖学

講師名 安保 直樹

ねらい

将来医療専門職に関わるものとして、系統解剖学の学習を通じて医学学習に対する基本的姿勢を確率するとともに、人体という自然に対する畏敬の念と、医学の継続学習の必要性を理解してもらう。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 人体の構造と昨日を学ぶにあたって 2. 骨格系 I 総論 3. 骨格系 II 各論 4. 筋と運動 5. 消化・吸収 6. 循環 I 総論 心臓 7. 循環 II 動脈系 静脈系 胎児の循環系 リンパ系 8. 神経 I 総論 中枢神経系 9. 神経 II 脳脊髄膜 脳の血管 末梢神経系 10. 神経 III 脊髄神経 自律神経 神経の主な伝導路 11. 感覚 12. 呼吸 13. 腎機能と排尿 14. 内分泌 15. 生殖	30	講義 グループ ワーク	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	前田 健康	医歯薬出版株式会社

生理学

講師名 石井 久淑

ねらい

生理学では人体の生命現象を司る様々な生体反応の機序とこれらの反応を維持するための生体の内部環境の恒常性（ホメオスターシス）の仕組みを理解することが目的であり、人体を構成する9つのシステム（神経、感覚、運動、循環、呼吸、消化、排泄、内分泌及び生殖系）の役割とそれらの協調的な相互作用を学修する。

2単位（30時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 序章 生理学とは 生体のシステム（系）と恒常性 2. II編6章 神経系1 神経系の成り立ち 3. 6章 神経系2 末梢神経系の構成と働き 4. 6章 神経系3 中枢神経系の構成と働き 5. 5章 感覚系1 体性感覚と内臓感覚 6. 5章 感覚系2 特殊感覚 7. 2章 運動系（筋系） 筋の構造と筋収縮の仕組み 8. 4章 循環系1 血液の成分と働き 9. 4章 循環系2 心臓と血管系による循環調節 10. 7章 呼吸系 呼吸運動とガス交換の仕組み 11. 3章 消化系 消化と吸収過程 12. 8章 排泄系 腎における尿の生成 13. 9章 内分泌系1 視床下部-下垂体系 14. 10章 内分泌系2 と生殖系 内分泌腺の種類と働き 15. 11章 各システムの相互作用と恒常性 体温調節	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	前田健康他編	医歯薬出版株式会社

生化学

講師名 北川 孝雄

ねらい

ヒトの健康な生命活動を支えるために行われている、体内・口腔内での代謝と呼ばれる化学反応について理解する

2 単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. I 編 1 章 生体の構成要素 生体の構成成分 2. I 編 1 章 生体の構成要素 生体の栄養素 3. I 編 2 章 生体における消化と吸収 4. I 編 3 章 糖質代謝 5. I 編 3 章 脂質代謝 6. I 編 4 章 タンパク質とアミノ酸の代謝、タンパク質合成、DNA と遺伝子 7. I 編 5 章 血糖値と糖尿病 8. II 編 1 章 歯と歯周組織の生化学 結合組織 9. II 編 1 章 歯と歯周組織の生化学 歯の無機成分 10. II 編 2 章 硬組織の生化学 骨と歯の生成 11. II 編 3 章 唾液腺の生化学 唾液の組成と機能 12. II 編 4 章 プラークの生化学 プラークの生物活性 13. II 編 4 章 プラークの生化学 プラークによるう蝕発生機構 14. 4 章 プラークの生化学 プラークによる口臭発生機構 15. まとめ	30	講義	筆記試験 及び 授業内での 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 栄養と代謝	高橋 信博	医歯薬出版株式会社

組織・発生学

講師名 井嶋 翔吾

ねらい

歯科医学的に最低限要求される組織・発生学の知識を身につける。
歯や歯周組織といった口腔組織・解剖・発生に関して理解する。

1単位（15時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 細胞小器官の種類と構造 2. 組織の種類と構造 3. 口腔粘膜の種類と構造 4. 唾液腺の種類と構造 5. 人体、口腔顎顔面の発生 6. 口腔の発生、歯と歯周組織の発生 7. 歯の組織 8. まとめ、試験対策問題演習	15	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習	筆記試験 (80%) + 小テスト (20%)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	前田 健康	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	前田健康・増田裕次 ・山根瞳・遠藤圭子 ・水上美樹	医歯薬出版株式会社
標準組織学 各論 第4版	藤田 尚男／藤田 恒夫	医学書院

口腔解剖学

講師名 岡崎 史佳

ねらい

歯科医療の基礎、臨床においても基本となる口腔の解剖学的構造を理解し、今後の基礎・臨床の礎となる知識を構築し、歯科衛生士国家試験に向けての知識も植え付ける

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 一般的な解剖学的構造 2. 口腔領域の解剖 3. 下顎の総合的構造 4. 下顎の総合的構造 5. 上顎の総合的構造 6. 上顎・頭蓋の総合的構造 7. 頭蓋の総合的構造 8. 舌の総合的構造 9. 顔面部の総合的構造 10. 顔面部の総合的構造 11. 顎関節、隙の総合的構造 12. 唾液腺の総合的構造 13. 重要部分まとめ（筋肉） 14. 重要部分まとめ（神経） 15. 重要部分まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	前田健康・増田裕次 ・山根瞳・遠藤圭子 ・水上美樹	医歯薬出版株式会社

口腔生理学

講師名 佐藤 寿哉

ねらい

健全な口腔機能を保つための諸機能とその調節について学び、口腔解剖学、口腔組織発生学などの知識を加え、ヒトの「口腔諸器官の働き」の基本を理解する。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. II編 3章 歯および歯周組織の機能 I編 3章 歯と口腔の感覚 2. I編 顎・口腔の機能 4章 味覚と嗅覚 3. 5章 咬合と咀嚼・吸啜 ①下顎位～③顎反射 4. 5章 咬合と咀嚼・吸啜 ④摂食行動～⑥吸啜 5. 6章 嚥下と嘔吐 6. 7章 発声 7. 8章 唾液分泌 ①唾液腺、②唾液の分泌機構 8. 8章 唾液分泌 ③唾液の性状・機能 ④唾液と疾患	15	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	前田 健康	医歯薬出版株式会社

病理学・口腔病理学

講師名 佐藤 英樹

ねらい

臨床で歯科医療を学ぶにあたり病気のメカニズム、治癒過程を勉強しておくことで臨床をより深く理解できるようにする。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 病理学総論 2. 循環障害 3. 代謝障害 4. 増殖と修復 5. 炎症と免疫応答異常 6. 腫瘍 7. 歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物 8. う蝕 9. 象牙質・歯髄複合体の病態 10. 歯周組織の病態 11. 口腔粘膜病変、唾液腺の病変 12. 顎骨の病変、加齢変化 13. 口腔領域の嚢胞と口腔領域の奇形、遺伝性疾患 14. 口腔領域の腫瘍と癌、 15. まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学	前田健康・眞木吉信・ 松田裕子	医歯薬出版株式会社

薬理学

講師名 仲盛 優菜

ねらい

薬物の体内における動態と作用を理解し薬理学の基礎的知識を得る

歯科薬理学の歯科衛生士国家試験に十分対応できるレベルに到達する

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 薬物の作用、薬物動態 2. 薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える因子 3. 薬物の副作用・有害作用、医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品 4. ビタミンとホルモン 5. 末梢神経系に作用する薬物① 6. 末梢神経系に作用する薬物② 7 中枢神経系に作用する薬物 8. 循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物 9. 呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物 10. 血液に作用する薬物 11. 免疫と薬、悪性腫瘍と薬、代謝系疾患治療薬 12. 炎症と薬 13. 痛みと薬 14. 局所麻酔薬 15. 抗感染症薬、消毒に使用する薬	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学	鈴木 邦明他	医歯薬出版株式会社

微生物学

講師名 宮川 博史

ねらい

微生物は、全身や口腔だけでなくいろいろな環境中に生存し、口腔感染症を含む様々な感染症を引き起こす。微生物学ではそのような感染症を引き起こす微生物の特徴や病原性、感染機序について学ぶ。また、微生物感染時におけるヒトの感染防御機構（免疫）とともに、疾患の予防（滅菌・消毒）・治療（化学療法）について学習する。

2単位（30時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 疾病と微生物（歴史）、感染と感染症 2. 微生物の位置づけ、微生物の観察法 3. 細菌の構造・代謝・増殖・病原因子 4. 化学療法と薬剤耐性 5. 滅菌・消毒，食中毒 6. 病原性細菌各論 7. ウイルス学総論・各論① 8. ウイルス学各論②，真核病原微生物 9. 免疫学1・宿主防御機構と免疫担当細胞 10. 免疫学2・免疫機構 11. 免疫学3・液性免疫 12. 免疫学4・細胞性免疫・アレルギー 13. 口腔環境と口腔微生物との関わり 14. 齲蝕に関与する微生物とその特徴 15. 歯周疾患に関与する微生物の特徴・ その他の口腔感染症と原因微生物	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学	木村思信・栗原英見 ・前田健康	医歯薬出版株式会社

保健生態学 I

講師名 岡川 直美

ねらい

人間集団とその周りの自然環境や社会環境との関りを学ぶことにより、個人の健康や地域集団の疾病予防、そして口腔領域の健康と疾病予防に理解を深める。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 保健生態学とは 2. 疫学の定義及び概念 3. 人口の動向 4. 健康と環境① 5. 健康と環境② 6. 健康と環境③ 7. 感染症の概念 8. 主な感染症の動向 9. 食品と健康 10. 歯・口腔の健康と予防 11. 歯・口腔の健康 12. 歯・口腔の付着物・沈着物 13. 口腔清掃の意義 14. 歯科疾患の疫学 15. まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	眞木 吉信他	医歯薬出版株式会社

歯科衛生学総論

講師名 西東 聖子

ねらい

医療に対する基本的な認識と理解および心構えを学ぶ。

歯科衛生士としての法律・業務内容・社会的役割について理解し、この職業の専門性について学ぶ。

1単位（15時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 1章歯科衛生学とは2章歯科衛生の歴史 2. 3章歯科衛生活動のための理論 3. 4章歯科衛生過程① 4. 4章歯科衛生過程② 5. 5章歯科衛生士法と歯科衛生業務 6. 6章歯科衛生士と医療倫理 7. 7章歯科衛生士の活動と組織 8. 8章海外における歯科衛生士	15	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論	遠藤圭子・高坂利美 ・合場千佳子ほか	医歯薬出版株式会社

歯科臨床概論

講師名 松下 貴恵

ねらい

歯科臨床について理解を持って教育を受けるために必要な知識を身につけるため、歯科や医科の用語とその意味を学ぶとともに、臨床上の歯科衛生士の担う役割を自覚してもらう。これから学習してゆく全ての臨床科目、実習において、必要不可欠となる歯科知識の基盤を学ぶこと。

1単位（15時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. I 編・1 章 歯科診療とは 2. I 編・2 章 歯科診療所、 3 章 歯科診療所における業務 3. II 編・1 章 ライフステージと歯科診療、 2 章 歯科診療で行うこと 4. 各論 歯科保存・歯周治療 5. 各論 小児・矯正 6. 各論 口腔外科 7. 各論 補綴 8. 各論 障害者・高齢者歯科	15	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版	松井 恭平	医歯薬出版株式会社

齲蝕予防処置

講師名 山田 寛恵

ねらい

う蝕のメカニズムについて理解できる。う蝕予防で使用する薬物を理解し、知識を習得することで、薬物の応用ができる。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. う蝕予防処置序説・う蝕の知識 2. 歯および唾液とフッ化物応用の知識・う蝕予防処置法のアウトライン 3. フッ化物溶液作成・フッ化物薬剤の味見と PH 測定 4. フッ化物の毒性について 5. フッ化物局所応用法について 6.7. フッ化物歯面塗布の相互実習 8. う蝕活動性試験① 9. う蝕活動性試験② 10. フッ化物洗口法 11. フッ化物配合歯磨剤 12. 小窩裂溝填塞法 基礎実習 13. 小窩裂溝填塞法 マネキン実習 14.15. 小窩裂溝填塞法 相互実習	30	講義 講義 講義・実習 講義・実習 講義・実習 相互実習 講義・実習 講義・実習 講義・実習 講義・実習 講義・実習 相互実習	講師による 実習評価 筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高坂利美・合場千佳子 ・白鳥たかみほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生士のための齲蝕予防処置法第2版	中垣晴男・加藤一夫 ・石飛國子・高坂利美 ほか	医歯薬出版株式会社

歯科予防処置 I

講師名 萱野 美帆

ねらい

口腔の二大歯科疾患の一つである「う蝕」と「歯周病」の原因・予防目的を学び、
専門的処置の基礎を習得する

各種器具機材の操作方法を学び的確な操作ができるようになる

3単位 (90時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科予防処置の法的位置づけ・内容・範囲と業務、 予防の概念について	2	教室	実技試験と 筆記試験
2.3.口腔の基礎知識・口腔の名称・歯の名称	4	教室	
4.う蝕と歯周病とは	2	教室	
5.口腔内の情報収集・ミラーと探針の操作方法	2	マネキン	
6.プロービング・歯の動揺・リンデの分類について	2	マネキン	
7. ミラー・プロービングマネキン実習	2	マネキン	
8.プロービングマネキン実習	2	マネキン	
9.プロービングマネキン実習（基本検査）	4	マネキン	
10. プロービングマネキン実習（基本検査）	2	ユニットで マネキン実習	
11. シックルスケーラー講義・把持法・固定	2	マネキン	
12.シックルスケーラー把持法・固定・模型練習	2	マネキン	
13.14.プロービング相互実習	4	ユニット	
15. シックルスケーラー操作方法（運動）	2	マネキン	
16. シックルスケーラーマネキン実習（上顎前歯）	2	マネキン	
17.18.プロービング相互実習	4	ユニット	
19.シックルスケーラーマネキン実習（下顎前歯）	2	マネキン	
20.シックルスケーラーマネキン実習（上顎臼歯）	2	マネキン	
21.22.シックルスケーラーマネキン実習（下顎臼歯/全顎）	4	マネキン	
23.24.シックルスケーラー/プロービング相互実習	4	ユニット	
25.歯面研磨講義	2	マネキン	
26. 歯面研磨マネキン実習	2	マネキン	
27.28.歯面研磨相互実習	4	ユニット	

29.30.キュレット講義.	4	実習室	
31.32.キュレット部位別操作法マネキン実習（上顎前歯）	4	マネキン	
33.34.キュレット部位別操作法マネキン実習（下顎前歯）	4	マネキン	
35.36.キュレット部位別操作法マネキン実習（上顎臼歯）	4	マネキン	
37.38.キュレット部位別操作法マネキン実習（下顎臼歯）	4	マネキン	
39.40.キュレット全顎マネキン実習	4	マネキン	
41.42.キュレット全顎マネキン実習	4	マネキン	
43.44.キュレット実技チェック	4	マネキン	
45.46.知識の総まとめ	4	教室	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高坂利美・合場千佳子 ・白鳥たかみほか	医歯薬出版株式会社

栄養学

講師名 坂下 美樹

ねらい

栄養は生命を左右する重要な役割を担っていて、身体は食べたものでしか作られません。。
食物を摂取した後の体内に於ける消化・吸収・代謝を理解し、現代の食生活の現状を知り、
正しい食生活を身につけ、食べ物とう蝕や歯周疾患との相互関係を学ぶ。

1単位（15時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 糖質の栄養学的意味 2. タンパク質の栄養学的意味 3. 脂質の栄養学的意味 4. 脂質の栄養学的意味 5. ビタミンの栄養学的意味 水溶性ビタミン 6. ビタミンの栄養学的意味 脂溶性ビタミン 7. ミネラルの栄養学的意味 多量元素 8. 水の栄養学的意味 微量元素	15	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝	高橋 信博	医歯薬出版株式会社

齒科保健指導 I

講師名 加藤 広奈

ねらい

健康と疾病の概念を理解し、人々の歯、口腔の健康を維持・増進するために、
プロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの基本となる知識・技術・態度
を習得する。

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 1年間の講義の流れ、Ⅰ編総論 定義 健康の概念	60		実技試験と 筆記試験
2.Ⅱ編 1章口腔の基礎知識、口腔の機能、摂食嚥下			
3.Ⅱ編 2章ウ蝕と歯周病の基礎知識、付着物・沈着物			
4.Ⅱ編 2章ウ蝕と歯周病の基礎知識、ウ蝕・歯周病			
5. 口腔内観察相互実習		実習	
6. 付着物沈着物の観察		実習	
7.Ⅲ編 歯科保健指導各論 2章分析のためのデータ			
8. 染め出し実習、ブラッシング実習		実習	
9. 3章食生活指導のための基礎知識 ①②③			
10. 3章食生活指導のための基礎知識 ④⑤⑥			
11. 3章食生活指導のための基礎知識 ⑦⑧⑨⑩			
12. 口臭、口腔の機能的問題の把握			
13.Ⅲ編 歯科保健指導各論		実習	
3章 口腔清掃方法 1. ブラッシング方法①			
14.Ⅲ編 歯科保健指導各論		実習	
3章 口腔清掃方法 1. ブラッシング方法②			
15.Ⅲ編 歯科保健指導各論		実習	
3章 口腔清掃方法 1. ブラッシング方法③			
16.Ⅲ編 歯科保健指導各論		実習	
3章 口腔清掃方法 2. 電動ブラシ			
17.Ⅲ編 歯科保健指導各論	実習		
3章 口腔清掃方法 その他の方法 補助的清掃用具			
18.Ⅲ編歯科保健指導各論 3章歯磨剤・洗口剤・保湿剤	実習		
19. 術者磨き(ブラッシング実習)	実習		

20.術者磨き（フロス・ワンタフト実習）.		実習	
21. 口腔機能管理に関わる指導、生活習慣の指導①			
22. 生活習慣の指導②			
23. IV編 歯科衛生活動の展開 1 章ライフステージ別 幼児期①			
24. IV編 歯科衛生活動の展開 1 章ライフステージ別 幼児期②			
25. IV編 歯科衛生活動の展開 1 章ライフステージ別 学童期①			
26. IV編 歯科衛生活動の展開 1 章ライフステージ別 学童期②			
27. IV編 歯科衛生活動の展開 1 章ライフステージ別 青年期①			
28. IV編 歯科衛生活動の展開 1 章ライフステージ別 青年期②			
29. 相互実習 口腔内観察、染め出し、PCR、ブラッシング		実習	
30. 相互実習 口腔内観察、染め出し、PCR、ブラッシング、保健指導		実習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高坂利美・合場千佳子 ・白鳥たかみほか	医歯薬出版株式会社

歯科放射線学

講師名 小野 公之

ねらい

歯科放射線に関する基礎知識、歯科臨床におけるエックス線撮影の影響やその防護方法に関する理解をすることは歯科診療において重要である。講義と実習を通じてそれらに関する十分な習得をねらいとする。

1単位 (20時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. X線撮影の目的及び画像診断の目的を理解する 2. 放射線の物理的特性と生物学的作用について 3. X線画像の形成原理とアナログ・デジタルの特徴 4. パノラマ・エックス線規格撮影・顎顔面領域撮影 5. 口内法 X 線撮影方法・手順について 6. 口内法画像の観察・失敗例について 7. パノラマ X 線撮影の手順・観察について 8. フィルム現像方法、保管方法、デジタル画像の特徴 9. 放射線治療法とその副作用に伴う口腔管理について 10. 口内法・パノラマ X 線撮影の実務を行う	16 4	講義 実習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学	松井恭平・合場千佳子 ・白鳥たかみ	医歯薬出版株式会社

臨床検査

講師名 山下 亜妃子・早坂 かすみ

ねらい

臨床検査とは、臨床検査の目的と意義について、検査の種類、方法、成績の評価について学び、他の職種と連携してのチーム医療としての臨床検査の役割を学ぶ。医療とは医師、歯科医師だけで成り立っているのではなく、看護師や他の様々な医療職種の協力から成り立っていることを知ってほしい

1単位（15時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 臨床検査概論、画像検査 2. 生化学検査、免疫血清検査 3. 生化学検査、感染症検査、病理検査生体検査 4. 生理検査、一般検査（尿検査） 5. 血液検査、凝固・線溶検査 6. 血液型検査、輸血検査 7. 8.尿一般検査実習、血液型検査実習	11 4	講義 実習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 臨床検査	井上 孝他	医歯薬出版

隣接医学

講師名 大久保 直登

ねらい

口腔以外の医学的な知識を身につけることで、病態に対する幅広い視野と知識を有した
歯科衛生士を目指すきっかけとなるように、身体に関する基礎知識(解剖学・生理学など)と
病態をリンクさせ、実臨床への応用が可能な医学的知識を習得することをねらいとする。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 隣接医学とは？ 代謝・内分泌疾患-1 2. 代謝・内分泌疾患-2 3. 消化器疾患-1 4. 消化器疾患-2 5. 循環器疾患 6. 血液疾患 7. 腎・泌尿器疾患-1 8. 腎・泌尿器疾患-2 9. 呼吸器疾患 10. 免疫疾患 11. 感染症 12. 神経疾患、精神疾患-1 13. 精神疾患-2、がん 14. 産科・婦人科疾患・妊娠 15. まとめ	30	講義	小テスト 筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック	橋本賢二・増本一真	医歯薬出版株式会社

歯牙解剖学

講師名 木山 望

ねらい

歯の形態を把握し、歯種ごとの特徴を説明できるようにする。歯の表示方式など臨床専門科目修得のための基礎知識を身につける。

1単位（10時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯の概論 2. 歯牙の形態 3. 永久歯①前歯 4. 永久歯②小臼歯 5. 永久歯③大臼歯 6. 乳歯①乳前歯 7. 乳歯②乳臼歯 8. 歯の配列と咬合 9. 異常歯 10.まとめ	10	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	前田健康・増田裕次 ・山根瞳・遠藤圭子 ・水上美樹	医歯薬出版株式会社

歯科診療補助 I

講師名 渡邊 一姫

ねらい

歯科診療における診療補助の位置づけ、診療補助と介助の違いを理解する。

歯科材料の基礎知識および基礎技術を学ぶ。医療安全について学ぶ。

3単位 (90時間)

内 容	時間 数	授業形態	評 価
1. 歯科診療補助の概念 2. 医療安全 3. 感染予防 4. 感染予防対策の実践 5. 医療廃棄物・薬品の管理 6. 診療室の基礎知識 7. 実習室の使い方① 8. 実習室の使い方② 9. 実習室の使い方③ 10. 共同動作について 11. ポジショニング・患者誘導・器具受け渡し 12. バキューム操作・シリンジ操作について（曲・直） 13. 口腔内洗浄2人・マネキン 14. 材料の基礎知識 15. 印象材とは 16. 口腔内洗浄1人・マネキン 17. アルジネート印象材練和実習 18. 口腔内洗浄2人・相互 19. 石膏について 20. 印象材と石膏について 片顎模型作成 21. ラバーダム防湿について 22. マネキンスタディモデル作成1 23. マネキンスタディモデル作成2	90	講義 講義 講義 実習 講義 実習 実習 実習 実習 講義 実習 実習 実習 実習 講義 講義 実習 実習 実習 講義 実習 講義 実習 実習	実技試験と 筆記試験

24. トリミング	実習	
25. 口腔内洗浄 1 人・相互	実習	
26. ラバーダム防湿 無翼法・有翼法 マネキン	実習	
27. ラバーダム防湿 2 歯露出法 マネキン	実習	
28. 合着材・接着剤	講義	
29. リン酸亜鉛セメント練和実習	実習	
30. 仮封材・仮着材について	実習	
31. ラバーダム防湿実習有翼 相互実習	実習	
32. ラバーダム防湿実習2歯露出 相互実習	実習	
33. 口腔内写真撮影について	講義	
34. 口腔内写真撮影 口唇排除と正面撮影法	実習	
35. 口腔内写真撮影側面撮影法 実習撮影画像の取り込みについて	実習	
36. 口腔内写真撮影咬合面撮影法	実習	
37. 口腔内写真撮影6枚法撮影法とミラー挿入法	実習	
38. 歯科衛生士に必要な介護・介助のスキルについて (1 章 2 章)	講義	
39. 要介護高齢者への対応 (3 章)	実習	
40. 歩行介助と車イス操作について (3 章)	実習	
41. 車イスからの移乗～ベッド歯科用ユニット～ (3 章)	実習	
42. 寝たきり高齢者への対応 (4 章)	実習	
43. ベッド上での体位変換、麻痺がある方の移乗について	実習	
44. 要介護高齢者の治療時に役立つスキル (5 章)	実習	
45. 救命処置①	実習	
46. 救命処置②	実習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	合場千佳子ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	末瀬一彦ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	末瀬一彦ほか	医歯薬出版株式会社
介護・介助の基本スキル	内藤徹ほか	医歯薬出版株式会社

保健生態学Ⅱ

講師名 高橋 大郎

ねらい

臨床で用いられる主な口腔疾患の予防の考え方に理解を深め、実践できるようになる。
ライフステージごとの口腔保健や精神・産業・災害・国際といった分野の口腔保健について学習し、保健活動における歯科衛生士の役割を理解する。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 序論 2. II 編 第4章 う蝕の予防 3. II 編 第5章 フッ化物によるう蝕予防 4. II 編 第6章 歯周疾患の予防 5. II 編 第7章 その他の疾患・異常の予防 6. II 編 第7章 口臭の予防 7. II 編 第8章 ライフステージごとの口腔保健管理 8. III 編 第1章 地域保健・公衆衛生 9. III 編 第2章 母子保健 10. III 編 第3章 学校保健 第4章 成人保健 11. III 編 第5章 産業保健 12. III 編 第6章 老人（高齢者）保健 13. III 編 第7章 精神保健 14. III 編 第8章 災害時の口腔保健 15. III 編 第9章 国際保健	30	講義	筆記試験 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	眞木 吉信ほか	医歯薬出版株式会社

法律・制度学

講師名 高橋 大郎

ねらい

歯科衛生士法の歴史を学び、歯科衛生士の重要性が増してきていることを理解する。また、歯科衛生士法を含む医療従事者の資格法や口腔保健に関わる法律、社会保障制度について理解を深める。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科衛生士法と法律1 2. 歯科衛生士法と法律2 3. 歯科衛生士法と法律3 4. 歯科衛生士法と法律4 5. 歯科衛生士法と法律5 6. 医療関係職種1 7. 医療関係職種2 8. その他関係法規（薬事関連） 9. その他関係法規（保健関連） 10. その他関係法規（その他） 11. 社会保障1 12. 社会保障2 13. 社会保障3 14. 医療の動向 15. 衛生統計	30	講義	筆記試験 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度	石井 拓男ほか	医歯薬出版株式会社

歯内療法学

講師名 村上 秀輔

ねらい

歯科治療の中でよく行われる治療の1つである歯内療法に対し、適切な理解を深め、安全に治療が行われるよう歯科衛生士としての役割を果たせるようにする。

1単位 (20時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯内療法の概要 2. 診査・診断、分類、治療法 3. 歯髄保存療法 4. 抜髄法、根管拡大・形成 5. 洗浄・貼薬 6. 根管充填 7. 外科的歯内療法 8. 外傷、歯根未完成歯の治療、生活歯髄切断法 9. 歯内療法の安全対策 10. ホワイトニング、象牙質知覚過敏症、歯内療法まとめ	20	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	千田彰・石井信之ほか	医歯薬出版株式会社

歯周治療学

講師名 長尾 敬志

ねらい

歯周疾患の病態・診査・治療法に関して、学術的な基礎知識を身に着ける。

歯周療法学に興味を持ち、自ら学ぶきっかけとする。

最終的には知識を患者さんの診療に還元できるようにする。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯周病とは？ 2. 歯周組織の構造と機能 3. 歯周疾患の分類① 4. 歯周疾患の分類②／歯周疾患の原因① 5. 歯周疾患の原因②／歯周医学 6. 歯周治療の進め方／診査① 7. 保険診療／診査② 8. 歯周基本治療① ～TBI, SC～ 9. 歯周基本治療② ～薬物療法, SRP～ 10. 歯周基本治療③ ～SRP～ 11. 試験対策①／歯周外科① 12. 歯周外科② 13. 分岐部病変の治療／リハビリテーション① 14. リハビリテーション② 15. メインテナンス	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	松井恭平ほか	医歯薬出版株式会社

歯科補綴

講師名 中条 裕太 宮前 健介

ねらい

歯科補綴学を臨床的，総合的に理解する。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科補綴学とは 2. 歯科補綴学の基礎知識 1 3. 歯科補綴学の基礎知識 2 4. 歯の欠損に伴う障害 5. 補綴装置（クラウン） 1 6. 補綴装置（クラウン） 2 7. 補綴装置（ブリッジ） 1 8. 補綴装置（ブリッジ） 2 9. 補綴装置（部分床義歯） 1 10. 補綴装置（部分床義歯） 2 11. 補綴装置（全部床義歯） 1 12. 補綴装置（全部床義歯） 2 13. 補綴装置（インプラント） 14. 歯科補綴における歯科衛生士の役割 15. まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学	赤川 安正ほか	医歯薬出版株式会社

口腔外科・歯科麻酔

講師名 笹谷 聖

ねらい

顎・口腔領域の疾患を挙げ、特徴、診断法、治療法を説明できる。

口腔外科診療における歯科衛生士の役割を説明できる

口腔外科患者と歯科衛生士の関わりを説明できる。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 口腔外科の概要 2. 顎口腔領域の先天異常と発育異常 3. 顎口腔領域の損傷と機能障害 4. 口腔粘膜の疾患 5. 顎口腔領域の化膿性炎症性疾患 6. 顎関節疾患 7. 顎口腔領域の嚢胞性疾患 8. 顎口腔領域の良性腫瘍 9. 顎口腔領域の悪性腫瘍 10. 顎口腔領域の神経性疾患・血液疾患 11. 顎口腔領域の腫瘍類似疾患・唾液腺疾患・診察と診断、滅菌と消毒 12. 口腔外科診療の実際（口腔外科小手術） 13. 歯科治療と歯科麻酔 14. 救急蘇生法① 15. 救急蘇生法②・まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学	山根 源之ほか	医歯薬出版株式会社

歯科予防処置Ⅱ

講師名 萱野 美帆・加藤 広奈・西東 聖子

ねらい

基本的操作に加えて対象者に合わせた説明や実技が正確にできるようになる。
 全ての実技習得へ向け、実践的な相互実習を中心に実技を身につける。

4単位 (120時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 2. プロービング相互実習 3. 4. 歯面研磨相互実習 5. 6. プロービング・SC・歯面研磨相互実習 7. シャープニング講義 8. 歯周治療患者説明・対応方法 9. 10. プロービング・SC・歯面研磨相互実習 11. 12. 歯面清掃器知識・実習 13. 14. 超音波スケーラー講義・実習 15. 16. プロービング・患者説明実習 17. 齲蝕活動性試験講義 18. 19. 超音波スケーラー相互実習 20. 齲蝕活動性試験実習 21. 22. PMTC・歯面清掃器講義・実習 23. 集団応用について 24. 25. PMTC・歯面清掃器相互実習 26. 27. プロービング・PCR・TBI 相互実習 28. 29. プロービング・SC・歯面研磨相互実習 30. 31. プロービング・TBI・歯面研磨相互実習 32. 33. プロービング・SC・歯面研磨相互実習 34. キュレット操作確認実習（前歯） 35. シーラント講義 36. 37. トレー法講義・実習 38. キュレット操作確認実習（臼歯） 39. 40. キュレット相互実習 41. 42. プロービング・SC・歯面研磨相互実習	60	講義 実習	筆記試験 実技試験

43. 44. プロービング・SC・歯面研磨相互実習			
45. 46. プロービング・手用スケーラー・歯面研磨実習			
47. 48. プロービング・PCR・TBI 患者指導実習			
49. 50. 対象者別患者指導実習			
51. 52. 53. 臨床工学技士学科コラボ患者実習			
54. 55. プロービング・SC・PMTc 相互実習			
56. 対象者別患者指導実習			
57. 歯周治療について①			
58. 歯周治療について②			
59. 歯周治療について③			
60. 歯周治療について④			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社

摂食・嚥下リハビリテーション

講師名 宮田 一生

ねらい

摂食・嚥下障害のリハビリテーションと口腔ケアが同時にできる専門家として知識・技術を学ぶ

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 口腔ケアとは 導入 2. 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士のプロセス① 3. 摂食・嚥下リハビリテーション概要 4. 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士のプロセス② 5. 介護と口腔保健 6. 口腔機能、接触嚥下機能とその発達 7. 摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケアの実践 8. 摂食・嚥下機能、その生理と障害 9. 摂食・嚥下における間接訓練・直接訓練 10. 摂食機能に関する高齢者特有の問題と背景 11. 摂食・嚥下障害に対する食指導・食支援 12. 誤嚥性肺炎、摂食・嚥下障害への対応 13. リスクマネジメント 14. 摂食・嚥下障害機能回復訓練、口腔保健のアプローチ 15. 摂食・嚥下リハビリテーションにおける連携	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生士のための摂食嚥下 リハビリテーション 第2版	植田耕一郎 編集代表	医歯薬出版株式会社

歯科保健指導Ⅱ

講師名 角 麻弓子・今野 麻央

ねらい

健康の疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術及び態度を修得する。

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. ライフステージ青年期Ⅰ 2. ライフステージ青年期Ⅱ 3. ライフステージ 成人期Ⅰ 4. ライフステージ 成人期Ⅱ 5. しょうがい①しょうがいを持った子どもとの対応 6. ライフステージ 成人期Ⅲ 7. しょうがい②レストレーナー体験実習 8. 喫煙者に対する指導 9. しょうがい③ 10. しょうがい④ 11. ライフステージ 老年期Ⅰ 12. ライフステージ 老年期Ⅱ 13. ライフステージ 要介護高齢者 14. ライフステージ 障害児者 15. ラ歯科保健指導実施のための基礎知識 16. 歯科衛生過程のすすめ方 17. 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 18. う蝕活動性試験の応用 19. 分析のためのデータ① 20. 分析のためのデータ② 21. 大規模災害被災者 22. 歯科衛生評価① 23. 歯科衛生評価② 24. 問診データアセスメント①	30	講義 実習	筆記試験

25. 問診データアセスメント②			
26. 27. 口腔内観察・術式・術者磨き①②			
28. まとめ			
29. 30. 口腔内観察・術式・保健指導①②			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社

保存修復学

講師名 兼子 裕史

ねらい

歯科保存学の歯科における重要性を学習すること。
歯科保存学が他の歯科の分野とどのような関わりがあるかを学習すること。
どのような問題が国家試験に出題されるのかを学習すること。
国家試験には出題されにくいですが、臨床的には必要な知識も学習すること
歯科保存修復学における歯科衛生士業務と患者様との関わり方について学習すること

1単位 (20時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 保存修復学概論 2. う蝕、及び歯科における硬組織疾患 3. 保存修復治療の準備、及び窩洞の分類、歯髄保護 4. コンポジットレジン修復 5. グラスアイオノマーセメント修復 6. 各種インレーについて 7. ベニヤ修復、リトニング 8. 歯科接着学概論 9. 保存修復学における歯科衛生士の役割 10. まとめ	20	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	千田彰・石井信之ほか	医歯薬出版株式会社

歯科矯正

講師名 川原 健介・高橋 東吾

ねらい

矯正歯科診療に携わる際の知識を身につけるための土台となる科目です。

矯正歯科診療のスタッフになり得る実践的知識を身につける入り口としてください。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科矯正治療の概要 2. 成長発育 3. 正常咬合と不正咬合 4. 矯正歯科診断 5. 矯正歯科治療と力 6. 矯正装置（１） 7. 矯正装置（２） 8. 上下顎の前後的、垂直的關係の不調和 9. 成人矯正・口腔顎顔面の形成異常と変形 10. 歯の埋伏と歯数の異常・治療時のトラブル・保険適用の矯正、 矯正歯科診断にかかわる業務 11. 矯正歯科診療時の業務（１） 12. 矯正歯科診療時の業務（２） 13. 矯正歯科患者と口腔保健管理 14. 口腔筋機能療法・器材、資料、文章の管理 15. まとめ	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学	氷室 利彦ほか	医歯薬出版株式会社

障害者・高齢者歯科

講師名 岡田 和隆

ねらい

高齢者の歯科保健，医療，福祉を学習する．

障害者の口腔の健康を維持・回復するための歯科衛生士の役割を学習する．

1単位 （30時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 高齢社会と健康/障害の概念 2. 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 3. 高齢者・障害者に関わる法制度/高齢者の住まい・入院設備 4. 加齢に伴う身体的機能の変化/高齢者の精神・心理的变化 5. 口腔・咽頭領域の加齢変化 6. 高齢者に多い全身疾患 7. 高齢者に特有な口腔疾患 8. 高齢者の生活機能評価・臨床検査 9. 高齢者の栄養状態・薬剤服用/在宅訪問歯科診療/歯科衛生過程 10. 口腔ケア・総論 11. 口腔ケア・各論/周術期口腔機能管理 12. 障害者の歯科医療と行動調整 13. 摂食嚥下リハビリテーション・総論 14. 摂食嚥下リハビリテーション・各論 15. 障害者への健康支援と口腔衛生管理/地域における障害者歯科	30		小テスト 筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学	植田耕一郎ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学	向井美恵ほか	医歯薬出版株式会社

歯科診療補助Ⅱ

講師名 高田 梨沙

ねらい

歯科診療室における、歯科衛生士の位置づけについて理解する。

他科目との繋がりを理解し、それに伴う歯科衛生士の役割について学び、技術の向上を図る。

3単位 (90時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 2年次の診療補助の流れ オリエンテーション 2. 口腔内写真撮影について 3. 口腔内写真撮影 カメラの取扱い・正面観撮影法 4. 口腔内写真撮影 側方面観 咬合面観撮影法 5. 口腔内写真撮影 6枚法撮影 データ取込み方法 6. ラバーダム防湿について 7. 保存修復学 概要 8. 保存修復学 直接修復 9. ラバーダム防湿 有翼法 10. 保存修復学 間接修復 11. 歯内療法学 概要 12. 歯内療法学 麻酔抜髄法 13. 歯内療法学 根管治療 根管充填法 14. ラバーダム防湿 無翼法 15. ラバーダム防湿 2歯露出法 16. 口腔外科 概要 17. 口腔外科 難抜歯 18. 歯科補綴学 概要 19. 歯科補綴学 全部鑄造冠 20. 隔壁 タッフルマイヤー型リテーナーについて 21. 歯科補綴学 前装鑄造冠 22. 歯科補綴学 部分床義歯 23. プロビショナルレストレーション 概要	90	講義 実習	実技試験 筆記試験

24. プロビショナルレストレーションにあたっての支台歯印象、模型作成①			
25. プロビショナルレストレーションにあたっての支台歯印象、模型作成②			
26. ラバーダム相互実習			
27. 歯科補綴学 全部床義歯			
28. スーパーボンド			
29. スタディモデルの印象採得・石膏注入①			
30. スタディモデルの印象採得・石膏注入②			
31. プロビショナルレストレーション 既製冠法①			
32. プロビショナルレストレーション 既製冠法②			
33. プロビショナルレストレーション 印象法			
34. プロビショナルレストレーション 混和法			
35. 歯周治療学 概要			
36. プロビショナルレストレーション 作成①			
37. プロビショナルレストレーション 作成②			
38. 歯周治療学 フラップ手術			
39. 歯科放射線学 X線実習にむけて			
40. 個人トレイ作成実習①			
41. 個人トレイ作成実習②			
42. X線実習 パノラマ撮影法、デンタル撮影法①			
43. X線実習 パノラマ撮影法、デンタル撮影法②			
44. 小児歯科学 概要 生活歯髄切断法			
45. プロビショナルレストレーション 作成③			
46. 総合試験対策			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	合場 千佳子ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	末瀬 一彦ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	末瀬 一彦ほか	医歯薬出版株式会社

小児歯科

講師名 野川 奈津子

ねらい

「よくわからない」を解消し、小児歯科診療に親しみを覚える

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 概論、心身の発育 2. 小児の生理的特徴 3. 顔面発育、歯の発育、歯の異常 4. 歯の異常 5. 小児の発達について 6. 歯列・咬合の異常 7. 小児の歯科疾患①齲蝕 8. 小児の歯科疾患②歯周疾患③口腔軟組織疾患 小児期の治療と歯科的問題点・対応法 9. 小児歯科における診療体系①原則・歯冠修復 10. 小児歯科における診療体系②歯冠修復 11. 小児歯科における診療体系③歯内療法 12. 小児歯科における診療体系④外科処置・保 隙・誘導 13. 障害児の歯科治療 14. 口腔機能発達、児童虐待、齲蝕予防 15. 小児歯科治療に関わる歯科衛生士について	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学	大嶋 隆ほか	医歯薬出版株式会社

マナー・コミュニケーション

講師名 佐藤 朱美

ねらい

患者さんとのコミュニケーションの第一歩である接遇マナーの基礎を学び
臨床実習で活用ができ、患者さんから選ばれる歯科衛生士を目指す。

またデンタルエステ「歯肉マッサージ」「リップエステ」では現場で実践
できる知識・技術を学びます

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 2. 接遇マナー①接遇マナーの目的・第一印象について 3. 4. 接遇マナー②敬語テスト・敬語の基本 5. 6. 接遇マナー③敬語テスト・印象の良い話し方・電話対応の基本・報連相 7. 患者さん導入・挨拶・フェイスタオル・お見送り 8. 9. 10. 敬語テスト・歯肉マッサージの目的・実習 11. 12. 13. 敬語テスト・リップエステの目的・実習 14. 15. 敬語テスト・歯肉マッサージの実習・まとめ（患者導入から）	30	講義 実習	実技試験 筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
接遇マナー・デンタルエステ	佐藤朱美	シェルクレール

キャリアデザイン

講師名 高田 梨沙

ね ら い

歯科衛生士になるために必要なことや、社会人になった時に必要な対応能力を身につける。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 就職活動についてのルール 2. 自己分析について 3. 自己 PR について 4. 求人票の見方と社会保険について 5. 履歴書の書き方 6. 面接練習 7. 社会生活について 8. 人間関係構築方法	15	講義	レポート

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
なし		

保健情報統計

講師名 岡川 直美・岩田 朋巳

ね ら い

科学的な根拠に基づいた歯科衛生活動ができるようになる。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 1章 保健情報と保健統計 2. 2章 保健情報と疫学 3. 3章 歯科疾患の指数 4. 歯周疾患の指数 5. 歯周疾患の指数 6. 歯周疾患の指数② 7. 口腔清掃状態の指数① 8. 口腔清掃状態の指数② 9. その他の歯科保健指標 10. 4章 保健情報の分析手順 11. 5章 保健統計の方法 12. 6章 保健情報の分析・演習① 13. 6章 保健情報の分析・演習② 14. 7章 情報の保護と倫理 15. まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間の社会の仕組み3 保健情報統計学	眞木 吉信ほか	医歯薬出版株式会社

歯科予防処置Ⅲ

講師名 山田 寛恵 仁井 奈美

ねらい

歯科予防処置において必要な知識を確実に習得することで、臨床・臨地実習で率先して行動できる学生を育てる。

更に、知識と実体験を結びつけ、国家試験に対応できる応用力を身につける。

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.歯周治療とは（症例を通して） 2.歯周治療の基礎知識 3.歯周基本治療 4.歯周外科とインプラント治療 5.セルフケアの指導 6.プラークコントロールと力のコントロール 7.メンテナンス・SPT 8. 健康の概念について 9. 予防の概念について 10. 口腔・口腔周囲について 11. 付着物・沈着物について 12. 歯周ポケット・プロービングについて 13. 歯周治療検査について 14. 手用スケーラー・シャッピングについて 15. パワースケーラー・歯面研磨・歯面清掃について 16 歯周病・歯周病原因について 17. う蝕・う蝕の原因について 18. 齧蝕活動性試験について① 19. 齧蝕活動性試験について② 20. フッ化物歯面塗布・術式について 21. フッ化物洗口・フッ化物配合歯磨剤について 22. フッ化物の毒性と対応・シーラントについて 23.24.患者実習（問診）	60	講義 実習	筆記試験

26.26.患者実習（保健指導）			
27.28.総合実習①			
29.30.総合実習②			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社

歯科保健指導Ⅲ

講師名 西東 聖子・岡川 直美

ねらい

3年次の歯科保健指導は、臨床における口腔ケアについてのエビデンスの理解を深め、臨床現場で実践できる能力を身につける。

2単位（60時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.口腔機能向上実習について 2.口腔機能向上実習実践 3.口腔機能向上媒体作成① 4.口腔機能向上媒体作成② 5.口腔機能向上媒体作成③ 6.口腔機能向上媒体作成④ 7.口腔機能向上媒体発表（クラス内発表） 8.嚥下体操（クラス内発表） 9.口腔機能向上媒体最終確認 10.口腔機能向上媒体レクチャー（2年生へ向けて） 11.リーフレット作成 12.口腔ケア実習パワーポイント作成① 13.口腔ケア実習パワーポイント作成② 14. 口腔ケア実習パワーポイント完成 15.口腔ケア実習振り返り① 16.口腔ケア実習振り返り② 17.歯科保健指導の意義と目的 18.歯科保健指導健康教育の進め方 19.保健行動と行動変容 20.情報収集・全身的な健康状態の把握 21.生活環境と生活背景の把握 22.生活習慣の把握 23.口腔の器質的、機能的問題の把握 24.口腔衛生管理・口腔清掃用具	60	講義 演習	筆記試験

25.歯磨剤・洗口剤			
26.口腔清掃状態の評価			
27.口腔清掃自立度			
28.生活習慣指導			
29.食生活指導			
30.健康教育			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社

歯科診療補助Ⅲ

講師名 高田 梨沙

ねらい

3年次の歯科診療補助は臨床における安全管理を念頭に置き、器具・器材・材料の取り扱い、用途に合わせた適切なアシスト・実技が理解、実践できる能力を養い、国家試験に必要な知識を習得する。

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.歯周治療時の診療補助 2.歯周外科治療時の診療補助 3.歯内療法治療時の診療補助 4.小児歯科治療時の診療補助 5.口腔外科治療時の診療補助 6.補綴治療時の診療補助 7.外科的歯内治療時の診療補助 8.保存修復治療時の診療補助 9.矯正歯科治療時の診療補助① 10.バキューム・器具受け渡し実習① 11. バキューム・器具受け渡し実習② 12.障害者・高齢者歯科治療時の診療補助 13. 矯正歯科治療時の診療補助② 14.セメント・印象練和実習① 15. セメント・印象練和実習② 16.歯科放射線治療時の診療補助 17.周術期口腔機能管理事前講義 18.周術期口腔機能管理とは 19.周術期口腔機能管理に必要な知識 20.口腔ケアの基礎・嚥下訓練 21.口腔ケア実習 22.まとめ①歯周治療時の診療補助 23.まとめ②麻酔抜髄時の診療補助	30	講義	筆記試験

24.まとめ③根管治療時の診療補助			
25.まとめ④CR・GI 充填時の診療補助			
26.まとめ⑤保存修復学で使用する薬剤			
27.まとめ⑥矯正治療時の診療補助、矯正ブライヤー			
28.まとめ⑦補綴治療時の診療補助			
29.まとめ⑧小児歯科治療時の診療補助			
30.まとめ⑨口腔外科治療時の診療補助			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論ほか臨床科目教本	合場 千佳子ほか	医歯薬出版株式会社

卒業研究

講師名 高田 梨沙・仁井 奈美

ねらい

これまでの学習成果の集大成として個人またはグループでまとめ発表する。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.卒業研究の目的 2.近年の歯科衛生士に求められている業務展開 3.これまでの関連研究の調査 4.5.テーマの決定 6. 研究対象と方法の検討① 7. 研究対象と方法の検討② 8.9.10.方法に従いデータの情報収集 11.データの分析、まとめ 12.データからの結果・考察 13.スライド作成 14.スライド最終構成 15.抄録作成	30	講義 演習	スライド発表

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
卒業研究 HAND BOOK	薄井由枝、品田佳世子、白鳥たかみ、 杉原直樹、田村清美、松田裕子	クインテッセンス出版 株式会社

歯科口腔介護

講師名 萱野 美帆

ねらい

訪問歯科診療の流れを学び、応用力を身につける

摂食嚥下について習得し、スクリーニングテスト・機能訓練について学ぶ

口腔ケアの実践力を身につける

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 訪問歯科診療とは	30	講義	
2. 訪問歯科診療での歯科衛生士の役割		講義	
3. アセスメントと口腔ケアの概要		講義	
4. アセスメント実習		実習	
5. 高齢者の保健指導		講義	
6. 口腔ケア講義		講義	
7. 口腔ケア指導内容記述について		講義	
8.9 摂食嚥下講義		講義	
10. 摂食嚥下スクリーニングテスト		講義	
11. 摂食嚥下訓練		実習	
12. 高齢者における各評価について		講義	
13. まとめ		講義	
14. 口腔ケア実習 (車椅子)		実習	
15. 口腔ケア実習 (仰臥位)		実習	

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション	植田 耕一郎ほか	医歯薬出版株式会社

総合演習

講師名 高田 梨沙・仁井奈美・峰松 望

ねらい

国家試験合格のための知識の確認

4単位 (120時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.歯科診療補助論①：共同動作について 2.歯科診療補助論②：消毒・滅菌について 3.歯科診療補助論③：リスクマネジメントについて 4.5.歯科診療補助論④：各術式に対するセッティングについて 6.7.歯科診療補助論⑤：各術式に対するアシスタント動作について 8.歯科予防処置論①：歯周組織について 9.10.歯科予防処置論②：予防的歯石除去法（手用スケーラー）について 11.歯科予防処置論③：超音波・エアスケーラーについて 12.歯科予防処置論④：PMTC について 13.歯科予防処置論⑤：アクシデント時の対応について 14.15. バキューム・器具受け渡し実習② 16.17.障害者・高齢者歯科治療時の診療補助 18.19.矯正歯科治療時の診療補助 20.セメント・印象練和① 21.セメント・印象練和② 22.周術期口腔機能管理事前講義 23.周術期口腔機能管理とは 24.周術期口腔機能管理に必要な知識 25.口腔ケアの基礎・嚥下訓練 26.口腔ケア実習①. 27.口腔ケア実習② 28.29.国家試験対策①歯周治療時の診療補助 30.31.国家試験対策②保存修復時の診療補助 32.33.国家試験対策③歯内療法時の診療補助児期 34.35.国家試験対策④矯正治療時の診療補助	120	講義 実習	筆記試験

36.37.国家試験対策⑤補綴治療時の診療補助			
38.39.国家試験対策⑥歯周治療時の診療補助			
40.41.国家試験対策⑦歯周外科治療時の診療補助			
42.43.国家試験対策⑧外科的歯内療法時の診療補助			
44.45.国家試験対策⑨口腔外科治療時の診療補助			
46.47.齲蝕予防処置①齲蝕予防処置とは			
48.49.齲蝕予防処置②フッ化物について			
50.51.齲蝕予防処置③フッ化物計算			
52.53.齲蝕予防処置④齲蝕活動性試験について			
54.55.歯科保健指導①指数について			
56.57.歯科保健指導②ライフステージ別患者指導方法			
58.59.摂食嚥下①			
60.摂食嚥下②			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 その他臨床科目の教本	合場 千佳子ほか 高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社 医歯薬出版株式会社

臨地・臨床実習Ⅰ

臨地・臨床実習Ⅱ

ねらい

臨床実習要綱に基づく隣地臨床実習（別に定める）